地学会創立20周年に想う

旧幹事　蘇陽高校　藤　本　雅太郎

「今年は地学会創立２０年目になる」という連絡を会幹事渡辺一徳先生から受けて、しばし深い感慨におちいるとともに、あらためて会誌１号から最近号の６４号までを取出してこれまでの会の歩みをふり返ってみた。

会誌１号に掲載されている当時の会員名簿には現在、県下の小中学高校で中堅ベテラン教師として活躍しておられる諸先生が熊大の学生としてお名前がのっている。１号と２号の表紙は本文と同じ白色のザラ紙であったものが、会誌３号からは厚手のオレンジ色となりこれは７号まで続いている。８号からはグリーンの表紙となり現在まで続いているが発会当時、熊本地学同好会という名称であったのがこの年、昭和３８年５月から熊本地学会と改められ当然、会誌の名称もこの８号から熊本地学会誌となっている。

会の事業の２本の柱となっているのは野外巡検および会誌発行であるが、これは３６年に会が設立されて以来現在まで着実に続けられており、このことは田村実先生を中心に特に熊大教育学部地学教室員の方々の並々ならぬ努力と熱意の賜であって、会員の１人として日頃から深い感謝と尊敬の念を持っている次第である。

私は１０年程前までは巡検会には可能な限り参加していたが、歳を重ねると雑事がふえ最近では御無沙汰しているが年１度の総会には設立以来、無欠席で参加している。

人間も２０才になると個性も明確になってくるが、会も２０年を経過して会則に謳ってある「地学教育の向上、地学教養の普及」という会の目的が一そうはっきりしてきたように思はれ同慶のいたりである。数年前、総会の席上で田村実先生から「会員数の大きな変動はない」ということをお聞きしたが、これは会の目的や活動状況が関係者に滲透し、枯木も山のにぎあいという考えの人がなくなって真に地学を愛する人たちで会が構成されているからであろう。

熊本地学会誕生後、着実な歩みを続けて20年を経過した。成人式にいろいろの行事があるように地学会でも記念行事又は事業をやってはどうであろうか。

１０年程前、県高等学校地学教育研究会では県内の地学巡検ガイドブックを発行した。これは当時の研究会長田代正勝先生を中心に高校現場の先生各位の努力と協力によって完成されたものであるが、今となって振り返ってみると内容が少し専門的過ぎたのではないかと感じている。このガイドブックの改訂版発行を地学会の記念事業の１つとしてやったらどうであろうかと考えている。

稿を終えるにあたり、会員の皆様方とともに熊本地学会創立２０年を心より祝し今後の発展を祈念して筆をおきます。